

令和7年度和歌山県文化奨励賞

いまよし いたる
今吉 格

住 所 大阪府高槻市
出身地 兵庫県伊丹市
生 年 昭和 55 年

◎ 業績及び経歴

昭和55年宮城県柴田郡柴田町に生まれる。小学6年生まで兵庫県伊丹市で育った後、和歌山県橋本市に転居し、高校卒業までの十代の多感な時期を同地で過ごす。大阪大学工学部応用自然学科生物コースを卒業後、京都大学大学院生命科学研究科修士課程高次生命科学専攻へ進み、平成20年に博士課程を修了し、博士（生命科学）の学位を取得する。大学学部生の間に、人間の身体の中で一番複雑な臓器である脳も、分子・遺伝子・細胞というレベルでの理解が可能な時代になっていることを知り、脳神経系の生命科学研究者を志した。大学院在籍中から、独立行政法人日本学術振興会特別研究員のほか、京都大学ウイルス研究所研究員を務める。博士号取得後は、哺乳類の成体脳においても、神経幹細胞がニューロン（生物の脳を構成する神経細胞）を産生し続けるという現象「ニューロン新生」の高次脳機能に果たす役割の解明等について、京都大学ウイルス研究所を拠点に研究を行う一方、国立研究開発法人科学技術振興機構（JST）が実施する若手研究者の支援プログラム「戦略的創造研究推進事業（さきがけ）」の平成21年度・平成26年度研究者として採択されるほか、京都大学が行う次世代研究者育成支援事業「白眉プロジェクト」の第2期（平成23年度～平成27年度）の「白眉研究者」（特定准教授）に採用されるなど、若手研究者として期待される。その後、京都大学大学院医学研究科メディカルイノベーションセンターSKプロジェクト神経新生研究グループのPrincipal Investigator、同大学院生命科学研究科特定准教授（卓越研究員）等を経て、平成30年に同大学院生命科学研究科教授に就任する。

これまでに、光を用いて神経幹細胞の増殖とニューロン分化を人工的に操作する新しい技術の開発や、老化した神経幹細胞を若返らせる研究等に成功し、それらの研究成果は高く評価され、数々の受賞歴を誇るとともに、世界的な学術誌に論文が掲載されている。

氏が取り組むこれらの研究は、将来的にはヒトの神経疾患や認知症などの治療に応用できる可能性があり、今後の一層の活躍が期待されている。

■現 在

- ・京都大学大学院生命科学研究科附属生命情報解析教育センター教授
- ・京都大学医生物学研究所教授

◆主な表彰歴等

- | | |
|-------|---|
| 平成22年 | 公益財団法人井上科学振興財団
第26回井上研究奨励賞 |
| 平成26年 | 在日ドイツ商工会議所 第6回
ドイツ・イノベーション・アワード ゴッドフリード・ワグネル
賞2014 最優秀賞 |
| 平成28年 | 文部科学省 科学技術分野の文
部科学大臣表彰 若手科学者賞 |
| 平成28年 | 橋本市文化奨励賞 |
| 平成29年 | 一般社団法人日本神経科学学会
第1回ジョセフ・アルトマン
記念発達神経科学賞 |